

# 【（公財）東京都農林水産振興財団】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

## 活用戦略で定めた「団体の将来像」

現場のニーズを把握し、担い手の確保・育成から経営基盤強化、試験研究まで幅広く担う、農林水産事業者の総合支援拠点

### 重要課題 ①

高齢化の進展、生産緑地の2022年問題が懸念される一方、農地の保全を後押しする法整備等が進む中、農業の担い手の確保・育成等の施策の中核を財団が担うために、いかに機能強化を図っていくか

### 検討の状況や今後の方向性

○財団は都から指定された就農相談窓口を設置しているほか、女性の農業分野での一層の活躍に向け、女性農家との交流や農業体験により就農をPRするツアーを実施。また、経営改善にチャレンジする農業者に対し、デザインや販売・流通等に関する専門家を派遣するなど、ブランディングや6次産業化を支援している。

○今後は、都内の農業者等を就農検討期から就農初期、経営発展期などの各ステージに応じて支援・育成する「東京農業アカデミー（仮称）」（2020年度～）において、実践的な栽培技術を中心とした2年間の長期研修や就農検討から農地確保までのハンズオン支援について新たに取組む。また、各ステージの農業者等に対し、就農相談からニーズに応じた支援メニューの紹介までを行う総合相談窓口を新たに設置し、サービスの拡充を図る。

○財団が担う範囲を拡大することで、一層のノウハウの蓄積を進めるとともに、都に対し現場感覚に基づいた企画・提案をするなど、都と一体となって農林水産業を強力に振興する。

# 【（公財）東京都農林水産振興財団】の課題と今後の方向性

## 重要課題②

持続可能な都市農業の振興に向けて、限られた農地でも収益性の高い農業経営を実現するため、技術進展が著しいICT・IoTやバイオテクノロジー等の先端技術の活用、都市型経営を視野に入れた研究開発等の新分野への果敢な挑戦が求められている。

## 検討の状況や今後の方向性

○ 大都市東京の農林水産業の持続的な発展に向けて、農林総合研究センターでは、①ICTを活用した高収益生産システム「東京フューチャーアグリシステム」、②イチゴ「東京おひさまベリー」を始めとする東京オリジナルのブランド農畜産物、③環境保全や安全性に配慮した生産管理技術の開発を進めている。

農総研で開発中の有望品目



八重咲  
ブバルディア



房取り  
ブルーベリー

○ 今後は、ICT等を活用したより収益性の高い農業経営の実現に向けて、遠隔監視制御等による「東京フューチャーアグリシステム」の高機能化、環境や防災に配慮したソーラーエネルギー活用等の技術開発に取り組んでいく。



「東京フューチャーアグリシステム」による高収益型施設栽培

○ このような技術開発を高度化・加速化し、その成果を迅速に生産現場に繋げるため、農林総合研究センターに「東京型スマート農業推進セクション」を設置するとともに、幅広い研究主体による研究開発プラットフォームを構築し、産技研や大学・企業等とのアライアンスにより、アグリテックの開発を一層強化する。